

令和2年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGsプロジェクト事業
森林空間を活用した教育イノベーション検討委員会（第2回）

議 事 次 第

日 時：令和2年12月3日（木）10:00～12:00

会 場：Zoom

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. 開 会 | 10:00 ～ 10:05 |
| 林野庁挨拶 | |
| 2. 議 事 | |
| （1）森林教育イノベーション調査の進捗報告、方向性 | 10:05 ～ 10:55 |
| ① 進捗報告、方向性（資料1-1、1-2） | |
| ② 質疑応答、討論 | |
| （2）モニターツアー進捗報告 | 11:55 ～ 11:15 |
| ① 進捗報告（資料2） | |
| ② 質疑応答、討論 | |
| （3）未来予想図ワークショップ進捗報告 | 11:15 ～ 11:35 |
| ① 進捗報告（資料3） | |
| ② 質疑応答、討論 | |
| （4）報告書構成案（資料4） | 11:35 ～ 11:45 |
| 3. その他 | 11:50 ～ 11:55 |
| （1）今後のスケジュール | |
| （2）最終報告会内容等（案）（資料5） | |
| 4. 閉 会 | |

資料一覧

資料1-1：森林環境教育イノベーション調査報告

資料1-2：森林教育イノベーション調査補足資料

資料2：モニターツアー進捗報告

資料3：未来予想図ワークショップ進捗報告

資料4：報告書構成案

資料5：最終報告会内容等（案）

令和2年度 つたえる、感じる、つながる 森林×SDGsプロジェクト

森林環境教育イノベーション調査報告(案)

2020年12月

株式会社 かいほつマネジメント・コンサルティング
一般社団法人 森と未来



森と未来
Future with Forest



KMC
Kaihatsu Management Consulting

内容

- 0. 「環境」「体験」の使い分けについて
- 1. 調査方針に基づく結果の整理
- 2. 結果の分析ととりまとめの進捗
- 3. 報告書で重点的に議論を進める点



「環境」「体験」の使い分け

- 「森林体験教育」: 自分で考え、自分で判断して行動する、仲間を思いやる、チームビルディング
- 「森林環境教育」: 森林環境について考える

多くの無関心層を森に来させる**イノベーション**となりうるのは、「**体験**」。調査したすべてのアクターが「体験」を重視。「体験」のみにこだわり、「森林」や「教育」にはこだわりのないアクターも。

イノベーションのために推進すべきは「森林**体験**教育」であることから、「森林体験教育」に記述を統一したい。



1. 調査方針に基づく結果の整理



全体調査方針と実施状況

5

1. 現行森林体験教育サービスの「内容と質」の検証。

- 森のようちえんや研修の顧客に対するアンケート、旅行代理店やポータルサイトに対する聞き取り。
- 事業者が意識する競合／代替の聞き取り。顧客にとっての森林体験教育サービスの位置づけを検証。
- 幼児から成人までを対象とする多様なサービスを調査。体験の積み上げの重要性や森林体験が減少する中高生年代に対する方策も聞き取り。
- 森林体験教育の優位性を検証する文献を確認。

2. 潜在需要に対応する新しい教育や研修サービスのフィージビリティの検証。

- 多彩な取り組みを行う30アクターから意見聴取。
- 森の学童保育、ワデュケーションサービス、丸投げ対応などのフィージビリティーに関しても聞き取り。



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

全体調査方針と実施状況

3. 先進的な事業・試みの発掘。

- ー 類型ごとにプロセスとアクターの役割を分析。
- ー ライト層を積極的に巻き込んでいる事業者に、アプローチの仕方を聞き取り。
- ー 移住者と地元の方の間の関係を事業者に対する聞き取りと移住者へのアンケートから検証。

4. 地域レベルで思いを持った人を発掘し、寄り添い、人と人をつなげていくプロセスを検証。

- ー 人と人をつなげる場づくり事例の収集。
- ー 地域おこし協力隊や集落支援員、先輩移住者、自然学校、林務担当者など核となる人々の分析。
- ー 教育立村、育児・教育で人を呼び込むプロセス。

インタビュー

団体カテゴリー	インタビュー数
森のようちえん	3
森の学童保育	1
青少年森林体験教育実施機関	8
サマーキャンプ実施業者	3
研修実施業者	3
先進的地方自治体	2
地域のステークホルダー	3
旅行代理店	1
ポータルサイト	2
学校教員	3
先進的教育機関	1
合計	30



顧客アンケート

対象者

調査結果概要

森のようち えん利用 保護者

民営園と(n=6)と公営園(n=11)でアンケートを実施。
認知のきっかけは園のホームページや移住支援サイト、自治体移住支援
窓口、口コミ、雑誌。
利用者は森でののびのびとした育児と園のサービスにおおむね満足し、
多くの移住者を惹きつけている。
保護者の価格感受性が高く、コストに見合う費用の徴収は簡単でない。

サマーキャ ンプ利用者

業者の多忙のため協力がいただけなかった。公立校の社会学習部とし
て体験教育を提供している業者が学校の担当者に対してアンケートを実
施(n=2)。

森林研修 利用経営 者／企業 の担当者

1社にアンケートを依頼。利用企業(n=3)からの回答を得た。認知のきっ
かけは口コミとホームページ。森では自己受容・自己開示・他者理解が進
む。チームビルディングに繋がる、ビジネスの原点を見つめ返せると高い
評価。価格も納得されている。

文献調査

- 先進的事業者の取り組み。
- 学習指導要領や各種ガイドライン、関連法規等。
- 森林体験教育の優位性に関するエビデンス。
 - 自然体験教育を幼児期に受けた子は、運動能力や体力が高く、自然への理解が深い、望ましい生活習慣が身に付いているとその保護者が評価している(山本、平野、内田:2005)
 - 幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高い(国立青少年教育振興機構:2010)



1-1. 現行森林体験教育サービスの 「内容と質」の検証



顧客タイプ別ボトルネックの整理

11

顧客タイプ	利用サービス	想定されていたボトルネック	調査から浮かび上がったこと
1. 地方の子育て世代	「森のようちえん」「森の学童保育」	サービスが目に残らない。期待するサービスがない。定員が少ない。費用が高い。	絶対数が少ない。 <u>少ない園児に多くの職員を当てる必要があるが、低賃金で人材を確保せねばならず、規模拡大も難しい。</u> <u>常設型の森の学童保育は稀有。</u> <u>「体験」と「学習補助・託児」にニーズは2極化。</u>
2. 大都市からの移住を考える子育て世代	「森のようちえん」「森の学童保育」とこれらの短期お試しバージョン	サービスが目に残らない。期待するサービスがない。短期対応がない。費用が高い。テレワークの環境がない。移住支援サービスの発信力が弱い、もしくは不十分。	短期対応はまだ一般的ではない。 <u>知人の存在と地域の方々との人間関係が移住決断の鍵。</u> <u>自由教育を打ち出した小学校も移住者を惹きつけている。</u>



3. 準備担当者 学校の森林体験活動	「森林版」森林体験活動 される 教育施設などで提供	サービスが目に残らない。 プログラムがマンネリ化している。 プログラムの企画実施を施設側に丸投げできないため担当教員の負担が重い。 地域社会と連動した課題解決型のものなど子どもたちに「考えさせる」プログラムがない。	公立校の森林体験教育は前例踏襲型。 プログラムの丸投げ対応は可能な施設も。 授業枠の確保が難しく、前例踏襲でない新しい試みを始めにくい。 枠を確保できても煩雑なプロセスがある。
4. 自然体験をさせたいが多忙な子育て世代	サマーキャンプなど民間企業が提供する森林体験	民間企業主催のサマーキャンプという選択肢に気づいていない。 利用したいサービスが探せない。 期待するサービスがない。選択肢が不足している。 費用が高い。	小学校高学年以上になると塾や部活に自由時間を奪われ、子どもの森林体験が少なくなる。 マーケットは低年齢化。
5. 企業経営者／研修担当者	森林での研修サービス	森林で研修をするという選択肢に気づいていない。 利用したいサービスが探せない。 選択肢が不足している。 費用が高い。	供給不足。 森林で研修をするという<u>選択肢に気づいていない</u>。 「森林での研修」というワードで検索できない。 市場での認知が進み、供給量が伸びるのはこれから。



対象年代別・サービス種別調査結果



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

森のようちえん

現状

- のびのびと自然の中で育児。利用者の満足度は高い。
- 移住者を惹きつけ、新しいコミュニティが生まれている。
- 働く保護者のために長時間保育対応を行う園もあれば、母親の手に育児の喜びを取り戻す観点から保護者の保育参加を求める園も。

課題

- 需要は高いが、供給が追いついていない。
- コストを保育料に転嫁するのが難しく、経営状況は厳しい。
- 職員の待遇改善と人材確保が課題。拡大は容易でない。
- 認可外保育事業者としての無償化対応が有効。
- 一般園での体験活動強化も必要。園の近くの場所確保が鍵。

代替：普通の幼稚園や保育園。



森の学童保育/プレーパーク

現状

- 常設型は稀有。イベント型は広がっている。
- 「体験」と「学習補助・託児」ニーズに2極化。
- 地方の子もあまり外で遊んでいない。
- 森のようちえんからオルターナティブスクールが派生。

課題

- 認知されていない。
- 民間学童保育への公的補助がほとんどない。
- 公設学童保育は「小1の壁」への対応で精一杯。質は議論されず。人材の専門性も問われず、詰込み型。体験活動もほとんどない。

代替(子どもの居場所): 公設の学童保育やスポーツクラブ、サッカースクールなどの習い事。



学校行事での森林体験

16

現状

- 林間学校などの単発イベントが中心。前例踏襲型。
- 教育旅行に森林体験プログラムを組み込む例も。
- 林業が盛んな自治体で、森林体験教育の実施事例。
- 子どもたちが主体的に関われるプログラムの需要が、私立校を中心に伸びている。
- 県レベルでの改革の試みも。

課題

- 教育課程上森林体験の枠が取れない。
- 林業が基幹産業でない自治体では必然性が薄い。
- 森林での教科学習実施は限定的。学校の立地に左右される。
- 高齢者ボランティアではファシリテーションが難しい。
- コロナ禍で体験教育の実施そのものが減少する傾向も。

代替：〇〇教育全般（枠の取り合い）



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

ボランティア型森林体験イベント

現状

- 保護者がボランティア参加を嫌う。ボランティア運営型のキャンプは衰退傾向。
- 民間業者が従来保護者ボランティアが実施してきたキャンプを丸ごと引き受けるサービスを提供し、需要が伸びている。
- NGOによる森林での課外活動提供事例も。

課題

- 子どもの教育でのお金儲けはいけないという考え。
- 営利目的でない団体がつぶれている。－経営力強化が必要
- 高齢者中心のボランティアは上から子どもに教えがち。後継者問題も。

代替：購入型森林体験プログラム



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

業者によるサマーキャンプなど

現状

- ボランティア提供型から購買型へ。高年収世帯は非認知能力が子どもにとって必須と考え、体験をお金で買う。
- 自然学校のほか、スポーツクラブやサッカースクール、学習塾などがサマーキャンプを企画。
- ターゲットは小学4、5年生まで。対象の低年齢化が進む。
- 付加価値の高い活動が「そのままの自然」が売れ線。
- 自然学校が旅行業資格を取る時代。

課題

- 中高生をターゲットにした森林体験マーケットはほとんど存在しない。部活や勉強で忙しくなるため顧客ではなくなる。
- 体験は段階的な積み上げが必要。日常的な体験がないまま森に連れていっても、焚火の前でするのはゲームの話。

競合：学校休み期間中の習い事や塾の夏期講習。



森林での社員研修

19

現状

- チームビルディングに重きを置くものから、社員によるCSR活動を兼ねたもの、経営陣を対象とした事業の原点・根幹を見つめなおすリトリート、キャンピングオフィスまで多様。
- 森では自己受容、自己開示、他者理解が進み、チームビルディングに繋がり、ビジネスの原点をじっくり見つめ返せると利用者の評価は高い。需要は拡大傾向。
- 中間業者による販売は、規模の大きい森林研修実施業者に限られる。社員旅行の代わりに社員キャンプを提案する形。

課題

- まだ供給が限られている。
- 一般の研修市場で広く認知されているわけではない。

競合(同業者は増えた方がよい):都市での研修、社員旅行、ダイアログ・イン・ザ・ダーク、断食道場、瞑想ワークショップ。



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

1-2. 潜在需要に対応する新しい教育 や研修サービスのフィージビリティの 検証



新規サービスのフィージビリティ

サービス内容	調査結果
短期対応の森のようちえん	短期対応園はまだない。一度園を視察して納得すれば入園を決める方が多く、お試しはあまり必要ないという意見も。
森の学童保育 プレーパーク	公営施設の受託管理者などが <u>定期プログラム</u> を実施。じわじわと人気が出てきている。参入は新規事業実施へのモチベーションと施設の利用状況に左右される。 <u>不定期イベントは増加傾向</u> 。
森林教育施設 のワデュケー ション拠点化	公営施設の指定管理者が、民間のノウハウでサービス改革中。適切な建物さえあれば、担当自治体と協議の上、 <u>サービスを開始することは十分可能</u> 。ビジネスモデルは要検討。
サテライト オフィス	地域のサテライトオフィスが移住希望者と先輩移住者の交流の場に。情報漏洩のリスクなどから、自宅にテレワーク環境を整えようという方が多い。高速インターネット通信網が整備された自治体も。各自が所属する会社側の移住に対する理解の方がむしろ課題。



1-3. 先進的な事業・試みの発掘



ライト層や無関心層の惹きつけ

- ラフティングや乗馬、英語でキャンプ、ユーチューバーキャンプ、宇宙キャンプ、一から塩ラーメン作りキャンプ。
- 手ぶらで社員キャンプ／研修。キャンピングオフィスで新しい働き方を提案。
- 街寄りの人を対象に「森感」を出さずに森で行う試み：ヨガや演劇、星空観察会、ピアノ演奏会、プレイパーク、木材工作。
- ライト層が主催するイベントを森で実施する支援。
- 森林教育施設で待ち合わせや打合せ、ベビーカーで来られる親子を引きつけ森の児童館化。



教員・保育士のためのおぜん立て

- 教育委員会や学校長を巻き込んだ県レベルでの改革を自然学校が主導。現場教師が行う講師探し、授業案策定、承認取り、予算確保などの複雑なプロセスを軽減。また木を使って算数、英語で森を学ぶなど、市街地の学校を想定し、木が1本あればできるプログラムも含めた教科教育での授業案を提案。(福島県)。
- コミュニティースクールで「1からカレー作り」。
- 幼稚園・学校近辺での「森」の確保を森林教育施設が支援。
- 教員・保育士・大学生を対象とした森林体験教育研修。



地域一丸となった取り組み

- 村内の多様な大人がつながって村内の子どもたちに体験活動を提供。山村留学、サマーキャンプが連動した教育立村の動き。
- 森林NPOや自治体の林務課・森林組合が中心となった幼小中高一貫森林体験教育の動き。
- 森のようちえんを中心とした体験教育・子育てコミュニティ創出と移住振興の動き。



1-4. 地域レベルで思いを持った人を 発掘し、寄り添い、人と人をつなげ ていくプロセスの検証



子どもの発達段階に応じた 森林体験教育を可能にするしくみ

背景に森での体験活動を実施する強い動機付け:

- 自然学校主導型: 雇用を創出し外部からも人を呼び込み教育立村の核に。自治体の地域振興政策にも直接関わる。森林教育施設の指定管理者としても改革実行。
- 森のようちえん主導型: 移住者と地元の方がつながる子育てコミュニティを創出。小学校での自由教育も多くの移住者を惹きつけている。
- 林産業主導型: NPOや森林組合、役場の林務課を核とした教育委員会・学校への働きかけ。地元幼小中高での一貫した森林体験教育や都会の小学生に対する森林体験教育を実現。



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

2. 結果の分析ととりまとめの進捗



需要が増大／縮小しているサービス

需要が増大

体験型・創造型・高付加価値型

森のようちえん、
自由教育実施小学校、
森の学童保育イベント、
付加価値の高いキャンプ、
ありのままの自然体験、
キャンプ企画実施の請負、
子どもたちに主体的に森を見つめ考えさせる自然体験、
森での社員研修、
森でのエグゼクティブリトリート、
キャンピングオフィス、
キャンプ場等でのワーケーション。

需要が縮小

従来型・一方向・低コスト・ 保護者に負担がかかるもの

従来型自然体験（飯盒炊爨・
ウォーキング等）、
ボランティア運営型キャンプ、
長期キャンプ、
子どもたちに「教える」ネイチャーガイド。

需要の増大・縮小要因

需要増大要因

- ・ 伸びやかな子育てや自由教育を求めている移住。
- ・ 特別な体験が求められ、特別な体験にはお金も出しやすい。
- ・ 手つかずの自然体験は新鮮。
- ・ 手間とリスクを嫌ってサービスを購入。
- ・ 体験活動でも学校を差別化。
- ・ 新しい働き方を模索する企業が増え、森での研修を評価。
- ・ 新鮮な環境で新鮮なアイデア。
- ・ 有休中にリモートワークし、休み明けの業務増大を回避。

需要縮小要因

- ・ 子どもたちは多忙な中で参加するキャンプに特別な刺激や体験を求める。
- ・ 上から教えるようなガイドでは子どもたちが興味を持たない。心をつかんで主体的に考えさせるスキルが必要。
- ・ 保護者も多忙。事故があればボランティアでも責任を問われ、割に合わない。託児ニーズも。
- ・ 多忙で長期キャンプには参加しづらい。教育効果は高いため利用者の支持は高い。



子どもの発達段階や体験教育実施ステップに応じた課題³¹

【課題】

- 学校教育における森林体験教育がイベント的に限定されている。
- 学校外での森林体験は、小学校高学年以降空白期間になる。

需要側の要因（発達段階ごと）

- ・ 森林体験教育サービスの利用者は移住者が中心。地元住民は積極的でない。
- ・ 中学校、高校と学齢が上がるにつれ、部活や塾に放課後・土日が奪われる。
- ・ 大人が森での遊び方を知らない、子どもに森林体験させるという発想にならない。
- ・ 子どもにも体験の積み上げが不足。

供給側の要因

- ・ カリキュラムの飽和、前例踏襲が取り組みの障害に。
- ・ 移動や安全対策が手間。里山が隣接しているなど、必然性がある。
- ・ アクティブラーニングとはいうが教員が子どもを信じていない。自由を与え、自分たちで考えさせることへの恐れ。
- ・ 教員や保育士にも自然体験が不足。若い世代になるほど顕著。動機付けも低い。

3. 報告書で重点的に 議論を進める点



重点的に議論を進める点

- ライト層、無関心層の森林体験を増やすための新しい森林体験教育サービスの紹介。
- 森林体験教育を振興するためにさまざまなアクターがつながるしくみ。
- 森林体験教育をさらに活性化するためにできること、すべきこと。
 - 各アクターの経営力や人材育成、広報の強化方策。
 - 長期的な視点で教育の本質を問い、体験教育を活性化するための方策。





ご清聴ありがとうございました



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

森林教育イノベーション調査補足資料

1：主要収集文献一覧

幼児：

- 浅井（2019）：お母ちゃん革命—日本一アツい多治見の森のようちえんの物語、ポプラ社
- 山本、平野、内田（2005）：幼児期に豊富な自然体験活動をした児童に関する研究、国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要第5号
- ミクリッツ（2018）：森のようちえん—ドイツに学ぶ森と自然が育む教育と実務の指南書、風鳴舎
- 森のようちえん全国ネットワーク連盟（2015）：平成26年度・27年度 公益社団法人国土緑化推進機構委託事業「森のようちえん」等の社会化に向けた調査等森のようちえん全国実態調査の集計および分析結果について
- 文部科学省（2017）：幼稚園教育要領

青少年：

- 環境省自然環境局（2003）：平成14年度中山間地域等における自然体験活動等を通じた地域活性化方策調査（自然体験活動受け入れ体制に関する調査）報告書
- 国立青少年教育振興機構（2010）：子どもの体験活動に関する実態に関する調査研究報告書
- 国立青少年教育振興機構（2014）：学校教育における『集団宿泊活動』の手引き—各教科等の関連を図る教育課程編成指導資料—
- 国立青少年教育振興機構（2019）：小中学校の集団宿泊活動に関する全国調査報告書
- 国立青少年教育振興機構（2019）：青少年の体験活動等に関する意識調査（平成28年度調査）報告書
- スポーツ庁（2018）：運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン
- 農林水産政策研究所（2005）：山村留学の現状と課題—平成15年度全国アンケート調査報告書、ライフスタイルプロジェクト研究資料第4号
- 農林水産政策研究所（2015）：子供農山漁村宿泊体験の現状と課題—宿泊体験受入者の意向調査及び実態調査結果、農村活性化プロジェクト研究資料第6号
- 文部科学省（2017）：小学校学習指導要領（平成29年告示）
- 文部科学省（2017）：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説—総則編
- 文部科学省（2017）：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説—特別活動編
- 文部科学省（2017）：中学校学習指導要領（平成29年告示）
- 文部科学省（2017）：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—総則編

- 文部科学省（2017）：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説―特別活動編
- 文部科学省（2018）：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）
- 文部科学省（2018）：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説―総則編
- 文部科学省（2018）：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説―特別活動編
- 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（平成 28 年法律第 105 号）

その他：

- 安部、増田（2020、編）：ESD の地域創生力と自然学校―持続可能な地域を作る人を育てる、ナカニシヤ出版
- 国土緑化推進機構（2020）：令和元年度林野庁委託事業―「森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査検討事業」報告書
- 「森林サービス産業」検討委員会（2019）：「森林サービス産業」検討委員会報告書―
- 「森林サービス産業」の創出に向けて～新たな森と人のかかわり「Forest Style」の創造～
- 辻（2011）：奇跡のむらの物語―1000 人の子どもが限界集落を救う！、農文協
- 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会（2008）：提言―学校教育を中心とした環境教育の充実に向けて
- 林野庁（2020）：森林環境譲与税の取組事例集

2：学校関係者に対するインタビュー結果

検討委員会での山下委員の以下のコメントを踏まえてインタビュー¹を実施した。

「森林環境教育の現状について、小学校から高校が提供するサービスとして、学校行事としての森林体験を捉えられているが、実際にはもう少し進んでおり、総合的な学習の時間や教科の中で森林について学んでいる。教室の中で学んだ内容と、実際の森林現場で学んだ内容とをいかにして結びつけていくのかということが、学校教育における今後の課題である。聞き取り調査の対象を小学校、中学校、高校の教員に広げ、「どのように森林環境教育を行おうと考えているのか」「なぜできないのか」について調査する必要がある。森林の重要性和同時に、森林環境教育を通して子どもたちが育むことのできる能力についてエビデンスを示し、教育課程の中でも森林環境教育が重要な役割を果たせることを普及すべき。（山下委員）」

① 実施している森林体験教育の内容

小学校	・地域の自然から学ぼうというテーマで小学校 5 年生を対象に総合的な学習枠を用いて 4 月から 11 月まで約半年間定期的に実施。小学校の裏にある里山で、里山にはどんなものがあるかというところから入って、森林の働きや、森林がなかったらどうなるのかについて考えさせた。 ・小金井市の小学生を対象に、清里にある小金井市の森林施設で、間伐や植生調査など生徒自身が決めたテーマに沿って活動させている。
中学校	・資源エネルギー庁のエネルギー教育モデル校として、エネルギー学習の一環として山と湖と暮らしを結びつける形で総合学習を実施。1 日の実習で学んできたことを発表、共有、討論。エネルギー教育、地域教育、森林教育、総合学習以前の常識的なところも盛り込んだ多面性を持った学習を行った ・中学 1 年生から 3 年生まで技術科の学習枠で森林に関わる講義を実施。 ・学校の総合的な学習の時間枠は制約が多いため、森林 NPO を立ち上げて活動している、参加する中学生は毎月 1～2 回山に行って自ら気づいた課題の解決を大人がサポート。
高校	SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に呼ばれて行って、実際に生徒に森で測量をさせたり植生調査の体験をさせる指導も行っている。

②森林体験教育で期待される教育効果

チームワーク	今の子はお互いの動きを見て今自分が何をしなきゃいけないんだろう、次の仕事をするにはこれに手を出しとかなきゃいけないと
--------	--

¹ 公立小学校 1 人、公立中学校 1 人、私立中学校 1 人、農林高校（元職）1 人に対して聞き取りを実施した。

	いった見通しを持ったり、察し合って互いに手助けしたりということができない。自ら課題を探し解決を図る森林体験で、このような能力を養える。
自己肯定感、自尊感情	自己肯定感とか自尊感情は中学生ぐらいで下がるのが通常だが、森林体験をするとそれが上がる。自分の心の芯みたいなのをしっかり持つことができるのが森林体験の強みである。
社会で起こっていることをもとに考える経験	入試のためではなく、社会で起こっている問題について考える経験。森が持っている機能やそこから起因してくるさまざまな問題について体験・認識させることは重要。

③企画・実施面での課題

森林体験教育を実現する上で重要なのは時間（授業枠）の確保、学校が里山に近いという立地、活動費用の3つ。

時間	・ 総合的な学習でないと時間が取れない。特に小学校では英語やプログラミングも総合的な学習で実施されるため、他のことに時間を割けないというのが現状。 ・ 学校現場では新しいことをやることへの抵抗が強く、多忙な中新しい企画を通すには相当なエネルギーを要する。 ・ 「〇〇教育」全盛の中、「森林体験教育」が埋没する傾向。いろんな体験教育を組み合わせ、その中に「森林体験」を含めるなどの工夫が必要。 ・ 中学校以上では、部活動が過大な負荷となっており、子どもたちが自ら判断し行動するための時間を奪っている。
立地	移動時間と移動費用の問題から、教科学習を森で実施する場合は、森が学校に隣接しているぐらいでないと難しい。森林地域にある、もしくは里山に隣接した学校の場合、森林を取り上げる必然性も増して有利になる。
活動費用	移動や安全確保などの費用が必要だが、予算がない、考慮されていないことが多い。関越道でのバス事故以降バス代が高くなっている

制約はありつつも、以下のような工夫で森林体験教育を実施している例はある。

小学校	学年単位で動く中学校以上とは違い、小学校は学級単位で動くことが可能。自己裁量でやれる環境があれば自由度は高い。小学校の先生が自分のクラスで森林教育を実施したという事例は多くある。 福島県では市街地の学校も念頭に置き、木一本からできる体験型教科教育の授業案の提案を準備している。管理職からの承認取り付けなど実施に伴う現
-----	--

	場教師の負担を軽減するため、校長会や教育委員会を巻き込んだ取り組みを進めている。
中学校	中学校以降は授業時間がタイトなので放課後の森林体験がしやすい。放課後や週末にやりたい子が森林での活動を行う。既存の部活の枠組みを使って「森林部」などを立ち上げるのも一案。
高校	高校の魅力化という流れで、普通高校であっても地域ごとに特色ある授業が導入されるようになってきている。地域の森林・林業を学ぼうという機運のある地域では森林体験学習も可能。また SSH（スーパーサイエンスハイスクール）などはカリキュラム編成が比較的柔軟に行えるため、森林体験を取り入れているところもある。農林高校ではカリキュラムの中に地域課題解決型のプログラムがある。
部活動（大学附属の私立中学校の例）	大学に「エキスプレイグラウンド」という新しい組織ができ、やりたいことをやれない講師や教員が集まって本当にやりたいことをやれる環境ができた。木工のサークルでは最新鋭の機材が専門家の指導の下利用できる。学生が木材加工ではなく森林の管理と利用という社会課題の解決に集中できる状況が生まれている。

令和 2 年度つたえる、感じる、つながる、
森林×SDGsプロジェクト共同事業体

モニターツアー進捗報告

2020年12月3日

株式会社 かいはつマネジメント・コンサルティング

一般社団法人 森と未来

内容

【モニターツアーの目的】

これまで森林と関わりが少なかった都市住民に対して、今時の価値観・ライフスタイルに合った森林の新たな楽しみ方や過ごし方を提案することにより、都市住民の森林に対する理解・関心を高める。

【発表の流れ】

1. 北杜市モニターツアー実施報告
 - 実施内容
 - アンケート&インタビュー結果
2. 奥多摩モニターツアー実施報告
 - 実施内容
3. 情報発信について



森林×SDGs 親子で楽しむ森の時間『ウェ デュケーション』体験モニターツアー概要

- 内容：これまで森林と関わりの少なかった0歳～8歳の子どもを持つ3組の子育て世代が、森林空間におけるテレワークと休暇（バケーション）、森林体験教育プログラム（エデュケーション）を体験する取材企画
- 期間：2020年10月30日（金）～2020年10月31日（土）1泊2日
- 場所：山梨県 北杜市
- ターゲット：親子（7～9歳の子どもを持つ30～45歳の多忙な子育て世代）
- 参加者：地方への移住や森林教育に関心のある、3組の親子（0歳、5歳、6歳、7歳、8歳の子どもを含む）
- 主催：令和2年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGs プロジェクト共同事業体
- 協力：北杜市役所
- 連携企業：白州・尾白の森名水公園「べるが」、白州・山の水農場、アトリエヨクト
- 協賛：サントリー労働組合白州支部、シャトレーズ



モニターツアー行程

■ 1日目（10月30日（金））

時間	内容	場所
10:05	小淵沢駅集合	小淵沢駅
10:10	小淵沢駅からべるがへ送迎車で移動	移動
10:30	オープニング・オリエンテーション	べるが
11:00	スタンプラリー	
12:00	昼食（お弁当）	
13:00	森林浴体験	
14:30	子供：サクッと工作 大人：テレワーク	
16:00	チェックイン	
16:30	温泉	尾泊の湯
18:30	夕食	べるが
20:00	大人：森×テレワークの座談会	

■ 2日目（10月31日（土））

時間	内容	場所
7:15	朝のお散歩	べるが
7:45	朝食	
9:00	チェックアウト	
9:30	移動	移動
10:00	きのご農家さん訪問～収穫体験 + 昼食作り～	山の水農場
11:30	昼食 ～きのご汁・新米ご飯～	
12:30	移動	移動
12:50	道の駅白州立ち寄り	道の駅白州
13:15	移動	
13:30	スパイスボトルのワークショップ/ インタビュー	アトリエ ヨクト
15:30	移動	移動
16:00	小淵沢駅着 16:10 解散	小淵沢駅

参加者情報



名前	基本情報	同伴家族
Aさん	東京都在住、会社員、37歳	妻40歳、息子8歳（小学校2年）、娘6歳（幼稚園年長）
Bさん	東京都在住、会社員・イベント、36歳	娘5歳（未就学児）
Cさん	東京都在住、施設運営業、38歳	妻40歳、息子7歳（小学校1年）、息子0歳児

写真報告



森林浴で川の音に耳を傾ける



森に寝転び空を見上げる



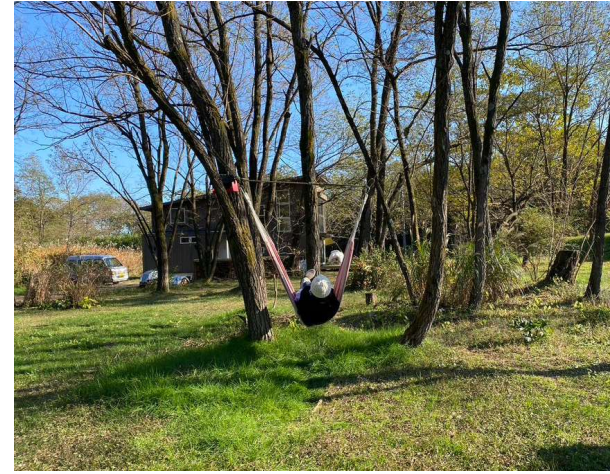
きのこの収穫体験



きのこ汁と羽釜ご飯を作る



スパイスボトルのワークショップ



暮らしに触れる

写真報告

大人



森に囲まれた空間でテレワーク



自分の時間を過ごす

子ども



森で拾ってきた葉っぱでアート



べるがのスタッフさんから教えてもらう

アンケート結果の要約

※アンケート結果詳細は添付資料を参照

コンテンツ	良かった点	悪かった点
森林浴	• 疲れていたココロとカラダがほぐれました。きちんと呼吸していなかったことに気づいたり、自分を振り返る時間になりました。 • 子どもたちと一緒にいることで、子どもたちが興味深そうに森で遊ぶ様子も一緒に見られたし、親子で森林浴をできたのは良かったと思う。	• 時期的に生物が少ないタイミングだったため、昆虫など多くいる環境であれば、より森の営みを感じることができると思う。 • 5歳の女の子が深い階段を下りるのに苦労していた。特に対象年齢を意識したケアも必要だと感じた。
テレワーク	• こどもたちと離れて集中できる環境があることがよかった。 • 今回は森や山のキレイな風景が見えることはとても贅沢に感じたし、限られた時間を集中して仕事をした。	• 外のネットワーク環境が整っていればシートを敷いて、外で仕事をしたいと思いました。指定の部屋以外でも仕事ができる環境があればよりよいと思います。
きのこ収穫体験	• 水谷さん*ご家族がとても印象的だった。お子さんは2人ともごく自然に仕事の手伝いをしたり、火おこしをしたり、彼らの暮らし方が伝わってきた。	• 今回収穫したきのこが、森林の中だとどのような場所で生えていたり、また類似する毒キノコもあることを伝えられたらより勉強になった。
スパイスボトルのワークショップ	• ワークショップもよかったが、アトリエと住居のロケーションが良すぎて驚いた。憧れの暮らし方だった。水谷さん一家同様、お子さんが両親の仕事を手伝う様子がとてもよかった。	• 北杜市の木の話や作品や商品に使用している木についての話をもっと聞きたかったです。

*「白州・山の水農場」の主宰者

コンテンツの訴求力向上のポイント

コンテンツに対する評価・改善案等（抜粋）

ワーケーション

- **こどもたちと離れて集中できる環境があることがよかった。**
- 外のネットワーク環境が整っていればシートを敷いて、外で仕事をしたいと思いました。指定の部屋以外でも仕事ができる環境があればよりよいと思います。
- 完全在宅で仕事ができ、さらに会社もワーケーションに仕事ができるような職場の理解のある職種、または、フリーランスなどの職種であれば、**1週間から中長期のニーズがあるかも。**

+

エデュケーション

- 都内でも自然の中を歩くことはありますが、**「森のプロ」と歩く経験はなかったので、より楽しめた**と思います。
- 親が森の歩き方を分からないので、**親向けの教育プログラムがある**といい。
- ワデュケーションの課題としては、子どもが小学生以上の場合、学校をお休みしないといけないこと。2拠点居住も学校を転校するなど必要になる。

コンテンツの訴求力向上のポイント

- **子どもだけで参加できるプログラムとのセットが重要。**
- **ネットワーク環境の整備。**例えば、ポケットwifiを貸し出して森の好きな場所でテレワークができるサービス。
- ワーケーションができるような職種を対象に**1週間から中長期滞在もできるようなプラン、設備**を作る。
- **プロフェッショナルによる森林体験教育プログラム**を用意する。
- 子どもにどういった体験をさせるかといった**大人向けのプログラム**を用意する。
- 地域で**デュアルスクールを活用できる受け入れ体制を整備**する。



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

森林×SDGs ポスト・コロナ時代のNEW STANDARD探求モニターツアー概要

- 内容：企業経営者、働き方改革先進企業の経営幹部、起業家など5名の参加者が、ツアープログラムの体験や参加者同士の対話を通じて、ポスト・コロナ時代の人と森との関係性、働き方・ライフスタイルを探求し発信する取材企画
- 期間：2020年11月24日（火）～2020年11月25日（水）1泊2日
- 場所：東京都 奥多摩町
- ターゲット：30～45歳のビジネスパーソン
- 参加者：企業経営者、働き方改革先進企業の経営幹部、起業家など5名
- 主催：令和2年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGs プロジェクト共同事業体
- 連携企業：一般財団法人おくたま地域振興財団、Okutama+、Circus Outdoor TOKYO、東京・森と市庭



モニターツアー行程

■ 1日目（11月24日（火））

時間	内容	場所
10:15	奥多摩駅集合。ハイエースで登計トレイルに移動します。	奥多摩駅
10:30	オープニングセッション	登計トレイル
11:10	森林セラピー（途中森の中でセラピー弁当）	
14:30	東京・森と市庭へ移動	
15:00	製材所見学、取り組み事例紹介、ディスカッション	東京・森と市庭
16:30	Circus Outdoor Tokyoへ移動	
17:00	Circus Outdoor Tokyo着、チェックイン	Circus Outdoor Tokyo
17:30	夕食	
19:30	焚火を囲んだ対話セッション	
21:00	入浴・フリー	

■ 2日目（11月25日（月））

時間	内容	場所
7:15	朝の散歩	Circus Outdoor Tokyo
8:00	朝食	
9:00	チェックアウト、Okutama+へ移動	
10:00	Okutama+施設見学、テレワーク体験	Okutama+
11:45	山鳩喫茶に移動	
12:00	昼食	山鳩喫茶
12:45	福祉会館へ移動	
13:15	クロージングセッション	福祉会館
15:00	解散	奥多摩駅

※ツアー内容をFRaUのWeb記事として掲載予定

参加者情報



ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社
取締役 人事総務本部長
島田 由香 様



NPO法人ミラツク
代表理事
西村 勇哉 様



株式会社SANU
創設者/ブランドディレクター
本間 貴裕 様



講談社FRaU編集長 兼
プロデューサー
関 龍彦 様



株式会社ダנקソフト
企画チーム ダイバーシティ
推進マネージャー
中 香織 様



写真報告



おくたま地域振興財団による登計（とけ）
トレイルでの森林セラピー



空がよく見えるよう設計されたベンチ



東京・森と市庭の製材所を見学



サーカスアウトドアでの焚き火を囲んだ
対話セッション



Okutama+ のコワーキングスペースで
のテレワーク体験



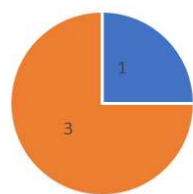
クロージングセッションでの地域の人と
のディスカッション

添付資料：アンケート&インタビュー結果

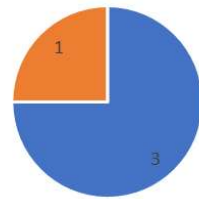
アンケート調査結果

各コンテンツの7段階評価（n=4）。すべてのコンテンツで「大変よかった」「よかった」「ややよかった」と回答。森林の新たな楽しみ方を理解するのに「効果的」との回答が多かった。一方で、きのこの収穫体験は「新たな体験ではない」との感想も。

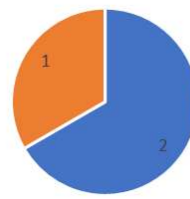
■ 大変よかった ■ やかった ■ ややよかった ■ どちらともいえない
■ あまりよくなかった ■ よくなかった ■ 全くよくなかった



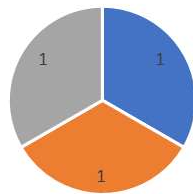
スタンプラリー



森林浴



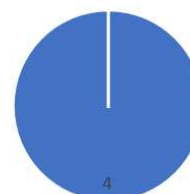
サックと工作



テレワーク



座談会



朝の散歩



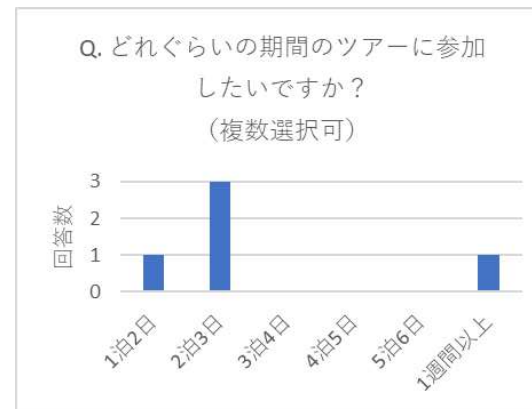
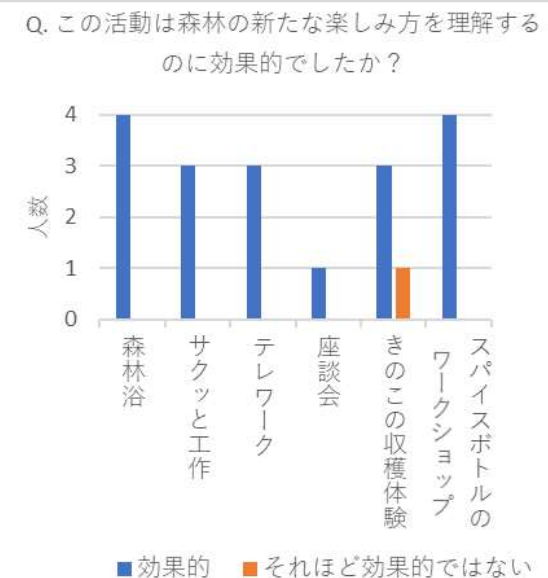
きのこの収穫体験



きのこ汁 & 新米ご飯づくり



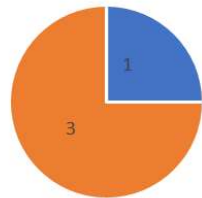
スパイスボトルのワークショップ



アンケート調査結果

宿泊施設の満足度は概ね高かった。他方、昼食や朝食は「ボリュームが多く食べきれなかった」といった感想が多かった。また「コロナ対策もあったと思うがもう少しワイワイしたかった」「ペットボトルの飲み物をたくさんいただいたがSDGsの観点からごみを減らす工夫があってもよかった」といった声があった。

■ 大変よかった ■ よかった ■ ややよかった ■ どちらともいえない
■ あまりよくなかった ■ よくなかった ■ 全くよくなかった



コテージ



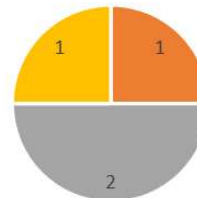
温泉



昼食



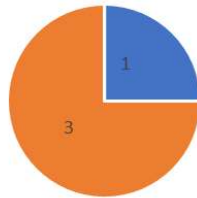
夕食



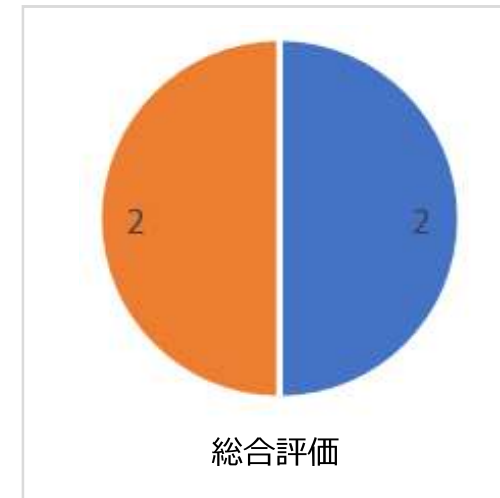
朝食



事前案内



運営面



総合評価

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

コンテンツ	コンテンツに対する評価
スタンプラリー - 写真を見て、施設内に隠されたスタンプを集めてくるアクティビティ - 探検しながら施設を知る	- こどもたちが、地図をみて探す経験があまり無かったため、いい経験となった 「新たな」というとそういうわけではないですが、子供たちにとってはとても楽しいプログラムでした。ただスタンプをさがすのもよいですが、黄色の葉っぱをさがす、とかどんぐりを5つとってくる、虫の写真を取ってくる、などでもより自然を感じられておもしろいかと思いました。 - べるがの森の様子を知るのにゲーム感覚で楽しかった
森林浴 - 森林の中でさまざまなワークを通じて五感を使う - 普段感じていない感覚に気づく	- 五感を使うきっかけになり、よかった（目を閉じて聞く、太陽の温もりを掌に感じる、川の在処を音から感じる、葉っぱの色を探す、自分の年齢と同じ木を探す、森で寝転ぶ、葉っぱの山にダイブする、木の密・疎の環境下で温度の違いを感じる） - 時期的に生物が少ないタイミングだったため、昆虫など多くいる環境であれば、より森の営みを感じることができると思う。 - 都内でも自然の中を歩くことはありますが、「森のプロ」と歩く経験はなかったもので、より楽しめたと思います。 - 自分が知らない植物の名前や、木に触れると温度が違うことなどを教えてもらったことが良かった。都会では木に触れることをしたことがなかったため、新しい発見があった。 - 一番楽しみにしていました。疲れていたココロとカラダがほぐれました。きちんと呼吸していなかったことに気づいたり、自分を振り返る時間になりました。 - 樹にふれてみたり、落ち葉の上に横たわってみたり、森の中で「何かをする」のではなく森そのものを肌で感じる事ができた。 - 大人だけであればもっと森林浴に集中できたのかなと思う反面、子どもたちと一緒にいることで、子どもたちが興味深そうに森で遊ぶ様子も一緒に見られたし、親子で森林浴をできたのは良かったと思う

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

コンテンツ

サクッと工作	- 木を切ったり、ボンドでくっつけたり、色をつけたり、木の工作 - 外で紅葉した葉っぱや枝を拾ってきてアートにしたり、工作に活用したりする
テレワーク	- Wifiが整った森林ビューの部屋でテレワーク - 大人が自分の時間を過ごす
座談会	仕事、教育、生活環境などについて語り合う

コンテンツに対する評価

- **道具を使って作品を作り上げる体験がよかった**（普段、道具を使った作業は料理を手伝うくらいしかやっていないので）
 - またここに帰ってきたくなる仕掛けがあったらいいな（例：つくった作品が、大きな作品の一部になる仕掛け。大きな作品が出来上がったときに自分が制作者の一人になる）
 - こどもたち自身が**集中して取り組んでいた**点がよかった
 - 残念ながら子供の気分が乗らず参加できず残念でした。拾ってきたもので作るアート作品のプログラムや自然の中で絵を描いたりするプログラムもよいかもしれません。（実際に娘が外でお絵かきしたい、と言っていました）
 - 子供は森の中から素材を拾ってくることを楽しんでいた。
-
- **こどもたちと離れて集中できる環境があることがよかった**
 - 緑に囲まれた部屋で仕事できるのは目に優しい気がしました。リラックスして仕事ができそう。
 - 外のネットワーク環境が整っていればシートを敷いて、外で仕事をしたいと思いました。指定の部屋以外でも仕事ができる環境があればよりよいと思います。
 - wifiと電源がつながっていれば、大抵どこでも仕事はできる。今回は森や山のキレイな風景が見えることはとても贅沢に感じたし、**限られた時間を集中して仕事できた**。少しの時間でもWORKの時間をとれたことは、体験としてありがたかった。
 - 私は参加できなかったのですが想像ですが、森の中の建物で仕事をした場合、気分転換に森を散歩などできたら素敵だなと思った。
-
- 各参加者の森林への関わり度合いを知るきっかけになった。せっかくなので、薪ストーブも試すことができれば、木が生み出す熱、明かり、音を感じることができた
 - **座談会は働き方や移住、海外の話など、とても刺激的でよい時間でした。子供や環境のことなどを真剣に考えてる方々と出会えてよかったです。**都会に帰ってきて改めて感じたことの共有会などもあればさらにうれしいです。

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

コンテンツ	
朝の散歩	ストレッチをした後、森の中を通り、近くの川まで散歩をする。
きのこの収穫体験	- 北杜市の水ときのこの話を聞き、3種のきのこ（なめこ、しいたけ、ひらたけ）を収穫する。 - パッケージングをしてお土産として持ち帰る。

コンテンツに対する評価

- 五感が研ぎ澄まされた（木々の香り、川の水の冷たさ、ふかふかの地面）川遊びができる時期にまた行ってみたい
 - 5歳の女の子が深い階段を下りるのに苦労していた。普段の運動量や経験値が山道だと出やすいので、いい経験になったと思うし、特に対象年齢を意識したケアも必要だと感じた。
 - 天気もよく、とても気持ちがよかったです。また北杜市を訪れたいと思う時間になりました。
 - 朝の散歩は日常的にできやすそうで、山梨に滞在や住んだときのシチュエーションを考えるのに役立った。
 - 朝食を森の中か川の側で食べるのもよいと思った。（寒い中、熱いコーヒーを飲みたい！）
-
- 森林の生産物であるきのこが成長する観察、収穫する楽しさを感じることができた
 - 今回収穫したきのこが、森林の中だとどのような場所で生えていたり、また類似する毒キノコもあることを伝えられたらより勉強になった
 - 都会で今の生活をしている中で、きのこがどうやって育てられるのかを体験できることはなく大人になっていくのでしょうか。もちろん私もでした。農家さんが大切に育てられたきのこに触れられ、食べ物のありがたさを感じられました。
 - 小学生のお子さんたちが体験を手伝ってくれましたが、子どもたちが親の生業の手伝い方を知り、彼らの暮らしへの誇りが伝わり、自然と日々遊ぶことが「家族の文化」としてあり、とても良い感じに思いました。
 - 森林を直接的に感じるわけではなかったですが、水の恵みや、気候を生かした農業に触れることができてよかった。
 - 水谷さん*ご家族がとても印象的だった。お子さんは2人ともごく自然に仕事の手伝いをしたり、火おこしをしたり、彼らの暮らし方が伝わってきた。移住や暮らしかたについて奥様に訪ねたところ、とても丁寧に答えてくださった。

*「白州・山の水農場」の主宰者

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

コンテンツ	コンテンツに対する評価
きのこの収穫体験&昼食づくり	- 釜で炊き上げるご飯、収穫したばかりのキノコ汁、キノコソテー本当においしかった - 火加減の調節が難しいことも経験になった - 自生している植物を紹介してもらった（小松菜、バカなす） - 採れたてきのこ新米ごはん、羽釜でみんなで作るなんて、絶対に東京都ではできない体験でした。最高に幸せなごはんでした。娘もおいしいー！とたくさん食べていました。 - 純粋にキノコが見た目も味も素晴らしく感動した。 - こんな風に日常的に屋外でつくって食べる生活をしたいなと思った - 子どもがこれをキッカケにキノコにとっても愛着を持つようになりました。帰路後。
スパイスボトルのワークショップ	- 作品作成後、庭で遊ぶことができた - 木の種類によって削るときの香りが違う、というお話が印象的でした。木のあたたかさを感じられる体験でした。 「森林の新たな楽しみ方」という点でもよかったと思います。 - 北杜市の木の話や作品や商品に使用している木についての話をもっと聞きたかったです。 - また、移住した方のお話がきけ、実際の生活を感じられたのも印象的でした。 - 子供が木材や機械に触れることができてよかった。 - 木の香りや木に色々な種類があることを感じる事ができた - ワークショップもよかったが、アトリエと住居のロケーションが良すぎて驚いた。憧れの暮らし方だった。水谷さん*一家同様、お子さんが両親の仕事を手伝う様子がとてもよかった。 - こんなセンスの良い方々が移住しているのだなと知ることができたことも良かった *「白州・山の水農場」の主宰者

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

宿泊施設 & 食事

コテージ	木のぬくもりが感じられるベるがのコテージ
食事	ベるがのサラダボウルキッチンのお弁当、ディナーbuffet、地元の定食屋さんの朝食デリバリー
温泉	尾白の湯

宿泊施設 & 食事に対する評価

- 暗闇を体験することができた。星空が最高だった。
- 森の中でハンモックに揺られながら、時間を過ごすことができた
- 泊まらせていただいたお部屋はどちらかというと昔のおばあちゃんの家、のような雰囲気でした。笑 今度訪れた際にはログハウス型のほうにも泊まってみたいです。
- 部屋ではあまりゆっくりする時間はなかったかな。少し部屋でゆっくりできて良かったかも
- 素敵なお部屋でした。また行く機会があれば、薪ストーブも使ってみたい！

- お肉が沢山入っており、満足
- 容器や食器に対して、環境配慮への意識を強く感じた
- 食べきれなかったのが申し訳なかった。
- とてもおいしかったです。こどもには量が多いかなと思いました。(通常でも提供されているメニューなののでしょうか??)
- コロナ対策もあったと思うが、他家族の様子もわからないままだったので、もう少しワイワイできたら良かった。
- 某社さんの協賛ということでペットボトルをたくさんいただいたが、SDGsなどの表現もされて嬉しいので、ゴミを減らす工夫をされてもいいのかなと思いました。うちではここ最近ではペットボトルの飲み物はほとんど購入せず、マイボトル持参していたりするので、給水ポイントなどがある方が、今回のプログラムにはふさわしいのかなと思います。手間はかかってしまいましたが。

- 露天風呂が二つもあり、楽しめた
- 子供たちはしよっぱさに驚いていた
- とても気持ちよかったです。娘も大喜びでした。
- 湯冷めしないかと心配しましたが、帰りもぽかぽかでした。
- ゆったりできる露天風呂が大変よかった。

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

ワーケーション&エデュケーション

テーマへの 理解関心	・ テーマへの理解が深まったと思うか
	・ また同様のテーマのツアーがあれば参加したいと思うか

ワーケーション&エデュケーションに対する評価

- ・ エデュケーションが森林だけでなく、地域も学びきっかけになったことがよかった（豊富な水資源、河川の砂の白さ、しょっぱい温泉）
 - ・ どういうものかは理解できたのですが、やはりあのような環境にいくならバケーションを最大に満喫したい、と思ってしまいました。
 - ・ また、自然体験という意味では子供にとっても素晴らしい機会だったのですが、「教育（エデュケーション）」という意味ではもう少し深めた学びがあるとよいと思いました。（例えば、あの川はどこからきてどこまで続くのか、都内の川とはどんな差があるのかとか、目の前にしたからこそ学べるものなど）
 - ・ 2家族の仕事を見せていただいたことで、自然の中での仕事・生活・遊びをひとつにする暮らし方をイメージすることができた。
-
- ・ 国土の7割が森林ということを知るきっかけに繋がっていきたい。その資源を生かし切れていない現実も知っていきたい。
 - ・ 会社の理解という点ではリモートワークよりもさらにまだまだ課題はあると感じます。
 - ・ また、未就学児という点では、目の届かない知らない土地・初対面の人、という安心安全の課題もあるかなと思いました。
 - ・ 親子の自然体験・教育というツアーがあればぜひ参加したいです。
 - ・ 子供も親も森で学べるのがたくさんあると感じたため。
 - ・ もっと自然を五感通じて感じていたい。もっと日常にできたらなと思っています。
-

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

ワーケーション&エデュケーション

子どもの変化や気づき

- ・ 森林体験を通じた子どもの変化や気づき

森林空間におけるワーケーション&エデュケーション

- ・ 森林空間の魅力
- ・ おすすめポイント



ワーケーション&エデュケーションに対する評価

- ・ 自分たちで発見する喜び、その喜びを伝えたい感情が溢れていた
- ・ 生き物との触れ合いを楽しんでいた（犬、猫、かえる、とんぼ）
- ・ 野草の種が絡みついて、外すのに苦労していた
- ・ 子供たちは直感で自然を楽しむことができるんだな、と思いました。のびのびと駆け回り、気になるものを手に取り、気に入るものを集めてくる。この経験・時間がどれだけ娘にとって大切な時間か、改めて考えました。
- ・ 友達と森があれば思い切り楽しく遊べることを（親も子も）実感した。
- ・ 木工すること、キノコの収穫などやったことのないことをやってみて出来たことが自信になったようで、木工や収穫なら「俺できるよ」と言っています
- ・ キノコの育つ様子、収穫体験を通じキノコに愛着が湧いたようで、食卓にキノコがでると、反応し・モリモリ食べるようになりました。

- ・ 普段忘れがちな感情に気づくことができる。暑い、寒いとは都心でも日々感じているが、寒い森林空間の中でも掌で日の光を感じるなど、自然の中に暖かさが存在していることを忘れがちだと感じていた。
- ・ 都会にいたときに感じるストレスが軽減し、気持ちよく仕事ができる状態でいられること。普段からテレワークをしているが、森林空間では集中度合いが違っていただけと感じている。
- ・ しっかり呼吸ができている感じがして、体も調子がよい気がします。森で綺麗な空気を吸ったときに、都会は空気が綺麗でないこと、日々仕事と子育てに追われほっとする時間がとれていなかったこと、おおよび深呼吸が出来ていなかったことに、気が付きました。
- ・ 都会では、子どもの歩く速さで歩けない。人が多すぎて、つい早く歩いてしまい、子どもの目線の高さ、気持ちに合わせられない。とにかく、モノや情報にあふれていたり、時間に追われているので、木に囲まれて、無駄なものがない空間の中で、邪魔されることなく、自分のことを考えることが出来た。
- ・ 景色がキレイで、心が落ち着くこと
- ・ それまで知らなかった周囲の家族と仲良くなるキッカケが溢れていること

調査結果

(アンケート&インタビューの結果)

ワーケーション&エデュケーション

ワーケーション&エデュケーションの課題

- ワーケーション&エデュケーションの課題は何だと感じたか

総合評価

- 総合評価

ワーケーション&エデュケーションに対する評価

- プログラムの少なさ。おそらく、自分たちで同じことを体験したいと思っても見つけることが難しい。**各地域ごとにあったプログラムが作成され、ツアー化されると参加しやすい。**
- 仕事場の理解・・・リモートワークがOKであっても所定労働時間の壁など
- 対象になる世帯が限られる
- 義務教育への影響・・・学校休ませてOK？
- 未就学児の場合、仕事できる？・・・**親以外に保育者がいるか、離れていられる時間は必須**（一緒にいて仕事はなかなかハード）
- 気軽さ・・・都内でふらっと行ける、のも重要。子連れ旅は移動や荷物の多さがネック（+PCはなかなか大変でした）
- 親が働いている間、子供をどのように遊ばせるかということ。今回のように一緒に遊んでくれる人がいれば良いが。
- テレワークなどは全く問題なし

- **参加者の人数、年齢層の設定がよかった。**子供たち同士もすぐに打ち解けることができ、遊びと学びの両方が体験できた。
- 娘と二人というのは大変なこともありましたが、とってもよい経験になりました。
- **まだじわじわと思い出しては感動するし、また行きたいと思います。**
- 子供同士の交流や同じ興味をもって参加した親御さんとの出会いもよかったです。
- **改めて、働き方、生活、仕事、子育て、環境問題などについて考えるきっかけとなりました。**
- とても楽しく、**自分たちの今後の暮らし方の参考になりました。**また北杜市を初めて知る機会としては大変よいセレクトの体験が出来たと感じています。

令和 2 年度つたえる、感じる、つながる、
森林×SDGsプロジェクト共同事業体

2050年の未来予想図
▶ ワークショップ
進捗報告

2020年12月3日

株式会社 かいはずマネジメント・コンサルティング
一般社団法人 森と未来

0.「2050年の未来予想図」ワークショップ

【目的・概要】

- 未来の社会の中核を担う**中学生・高校生**に、森林と自分たちの暮らしの関わりを「自分ゴト」化し、森林に対する理解・関心を高めてもらう
- 対象人数：1回 20-40人
- 実施状況

実施済

今後実施

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市	静岡県掛川市	長野県根羽村
開催日	10月29日	11月27日28日	12月1日	12月5日	12月13日
所要時間	2時間	1日	100分	1日	1日
対象者	中学生	中学生	中学生	高校生	中学生
参加人数	20名	19名	40名	12名	30名
森林体験	なし	あり	なし	あり	あり
WS時間	2時間	2時間半	100分	2時間半	未定
成果物	模造紙、画用紙に絵や言葉で表現	模造紙、画用紙などに絵や言葉で表現	模造紙、画用紙などに絵や言葉で表現	森林体験リアルボイス＋模造紙、画用紙に絵や言葉で表現	未定

1. 東京都内（10/29）実施報告

（１）概要

【対象】東京学芸大学附属小金井中学校GREEN TECH Engineer LABの学生20名

【オブザーバー】

- 顧問教員、NPO法人 緑のダム北相模、
（株）教育新聞社、附属小金井中卒業生、文部科学省、林野庁

【プログラム】（2時間）

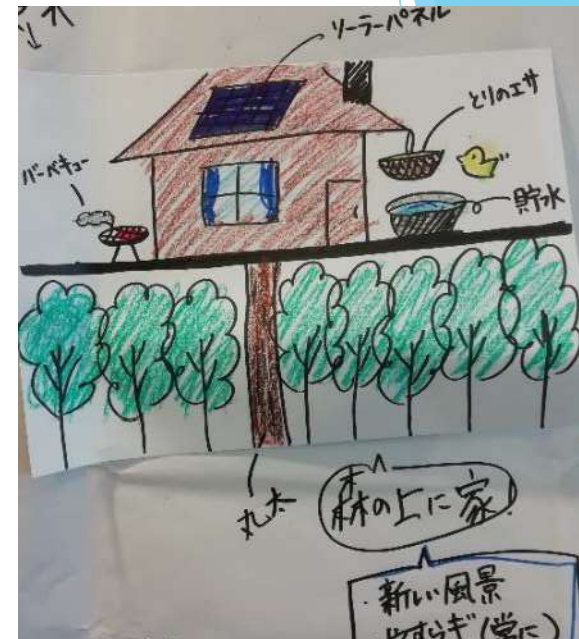
1. 参加者の森林体験の共有
2. クイズの解説
3. 2050年の未来予想図 作成 ①新しい森の使い方のアイデア
②私×森～私と森のカンケイ
③今後のアクション～私ができることはなんだろう
4. フォレストバトン・パス メッセージ撮影

1.東京都内（10/29）実施報告

（２）成果（一部抜粋して紹介）

①未来の森、新しい森の使い方アイデア

- ドローンやデジタル技術を活用して、森林管理を効率化する
- 仕事場として利用できるツリーハウス
- 都会人もハンディキャップを持つ人も森林を感じられるような、バリアフリーの森林空間 など



1.東京都内（10/29）実施報告

（２）成果物（一部抜粋して紹介）

②私と森のカンケイ

森＝

- ・ 自然と人間の仲介者
- ・ 生物の源
- ・ 絶滅を防ぐ盾
- ・ 人間の生活を守る盾
- ・ 水・食料の宝庫

木を伐るのではなく、
観光の目的に活かして
いきたい。



【参加学生から、他の地域の学生へのメッセージ】（一例）
都会に住む私たちと、もっと森が身近にある地域の学生とは、
森に対する価値観、考え方もちがうと思うので、他の地域の
みんなのアイデアに興味がある。

③今後のアクション



子供

森が好き!!
森が楽しい!!
森へ行って機で遊ぶ。
という印象を持たせる。木のおもちゃで遊ぶ。



中高生

木を守りたい
という印象を持たせる。現在の森の現状を学ぶ。
木を切ってみる。



大人

- ① 森を守る活動をする。
- ② 子供・中高生が森を楽しむ企画を考える。



子供



このローテーションを形づくっていく!!

1.東京都内（10/29）実施報告

（３）参加学生からの感想

ワークショップの感想・学び（一部抜粋）

森で活動はしていたが、**将来の世代に受け継ぐことについては考えたことがなかった。**

人によって森への思いは違うけれど、**多くの人が森の自然から安らぎを得ていると分かった。**

自分が大人になった時を想像し考えられれば、**子供だからできないことはないと思った。**

今の日本の現状を見て、自然を大切にすること、私たちが未来に関わり、**もっと森について知ってもらい、関わる機会を増やして行くことが大切だと思った。**

自分たちとは違う環境の人たちと意見を交換できる機会は、**なかなかできないことだと思った。**

森を守っていくには、**一人だけではなく たくさんの人で協力する必要がある。**新しいアイデアが必要であることがわかった。

（４）参加者（学校関係者）からのコメントと対応方針

コメント	対応方針
実際の作業や活動と連動した上で、 実体験に基づいてこうした活動を行う必要がある。	森林体験の時間がとれる場所では、実践する。体験と組み合わせたプログラムの意義を、本事業より教育現場へ提案する。
実際には 現地に行くハードルが高く 、室内でそれらしい話をするに終始することが多いので、その ハードルを越える施策 をお願いしたい。	現地に行くことのハードルを具体化し、解消するための手段を考察する。

2.福岡県篠栗町（11/27・28）実施報告

（1）概要

1. **【事前講義】** ～過去に学ぶ～ **11月27日**
「篠栗の森の成り立ちについて」 教育委員会 平ノ内主査
「森林×SDGについて」 森林×SDGsプロジェクト

- 聴講者 中学1年生110名＋傍聴者



2. **【森林体験】** ～今を感じる～ **11月28日 午前**
森林セラピーロードを、森の案内人のガイドのもと歩く



3. **【ワークショップ】** ～未来を描く～ **11月28日 午後**
ワーク①森歩きで感じた、森の印象・感想
ワーク②未来の森を想像する
ワーク③未来予想図の実現のためのアクション
ワーク④フォレストボタン・メッセージ～他の地域の学生に伝えたいこと

参加人数：中学1年生19名、学校関係者6名、父兄4名、地域関係者11名



森と未来
Future with Forest



KMC
Kahatsu Management Consulting

2.福岡県篠栗町（11/27・28）実施報告

（2）森林体験の様子

修験道と関連の深い歴史
ある森を、森林セラピーガイ
ドの案内のもと歩く



大杉の前で、森からの
メッセージを書き留める

森に寝転び、
空を眺める



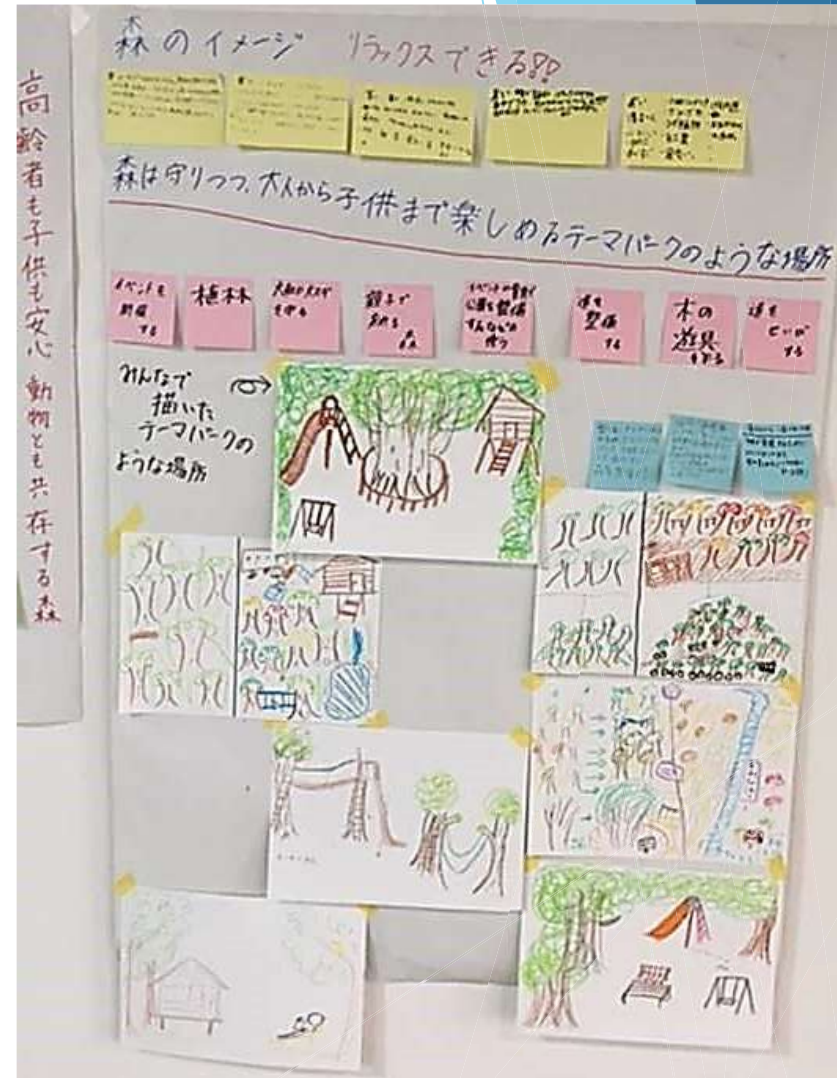
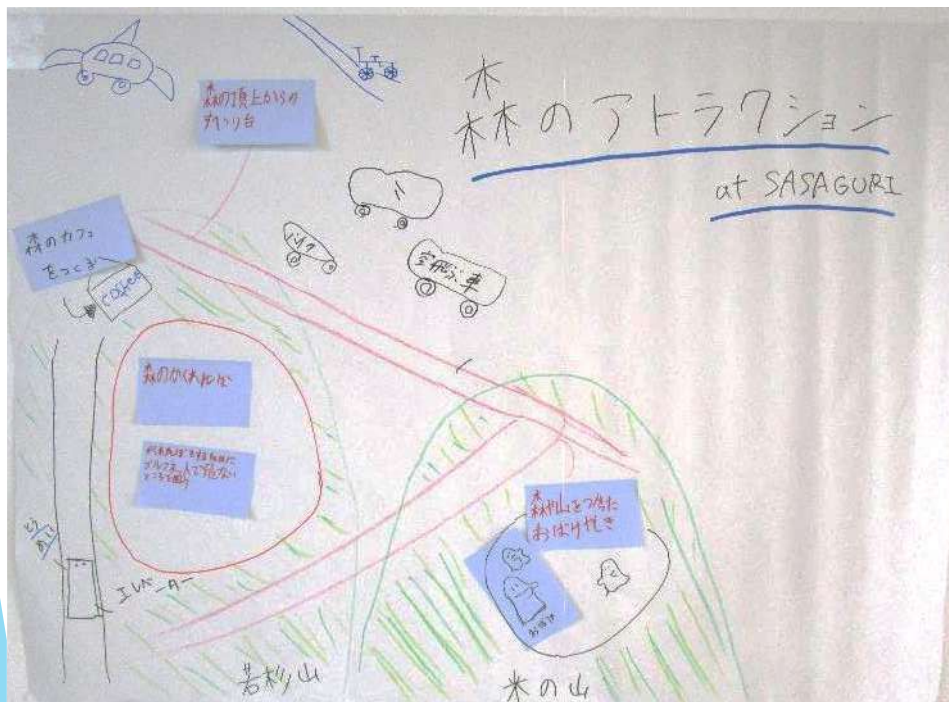
木に抱きつい
てみる

2.福岡県篠栗町（11/27・28）実施報告

(3) 成果（一部抜粋して紹介）

アイデア発表テーマ

- 全年代が楽しめるテーマパーク
- 森林案内ロボット
- QRコードで場所の解説、VR





4.これまでの開催の気づき・所感

	東京都内	福岡県篠栗町	山梨県北杜市
森林体験	なし 課外活動で森林整備や間伐材による木工を実践。	あり 地域の山で森林セラピーを体験。	なし 周囲を山に囲まれているが、山に入ったり、意識する機会は少ない。
成果物の所感	➤ 森林管理の必要性や木材価格の問題に関する知識があり、経済的に持続的な仕組みを作る意図がうかがえた。 ➤ 森林整備の意義を、より長期的視点で見直していた模様。	➤ 直近で体感した森の心地よさ、五感が素直に表現された。 ➤ 足場の悪さなど現実的な課題にも気づき、解決に向けたアイデアも示された。	➤ 各自の体験が異なる中、森＝暗くて寂しい場所、何もすることがない場所という印象もあったが、未来の森は理想に溢れた夢のある像が描かれた。 ➤ 今後、調べ学習で、課題も含め考えるきっかけとなることに期待。

- 森林体験と合わせてワークショップを実施することが効果的。
- 地域の方の協力が不可欠。
- 子どもの主体性を活かすファシリテーションが重要。
- 他地域の学生とのメッセージ交換は、子どもたちにとってよい刺激になる。

5. 今後の予定

(1) ワークショップ

①静岡県掛川市（12/5）

掛川西高校 アウトドア部 12名

- ・ 森林組合職員による森林の仕事、展望説明
- ・ 森林の楽しみ方（薪割、E-MTB、トーチ）

②長野県根羽村（12/13）

根羽学園 中学校

学生主導による企画運営

※コロナの感染拡大を受け、東京からの訪問は控え、オンライン中継予定。

(2) 成果の活用

- 成果物やアンケートの集計結果をもとに、学生の気づきを整理する。
- 総合的学習の時間での実施を想定し、教員や地域関係者が、森林体験とワークショップを実施する際の利点や課題を分析する。
- ワークショップの企画・運営上のノウハウをマニュアルに整理する。
- 次年度以降も継続して開催するための体制を検討する。

(3) 成果の発信

- ワークショップ成果を、農林水産省のウェブサイトおよび公式You Tubeチャンネルで発信する。その他、教育雑誌への掲載を検討する。

令和２年度 つたえる、感じる、つながる、森林×SDGs プロジェクト事業 調査報告書構成案

１．全体構成

概要編と詳細編の２部構成とする。

I. 概要編

1. 本事業の概要
2. SDGs時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション調査
3. メディア・企業との競争による「森林xSDGsプログラム」の発信
 - (1) 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー
 - (2) 2050年の未来予想図ワークショップ
4. 今後の展開、提言

II. 詳細編

1. SDGs時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション調査
2. メディア・企業との協創による「森林xSDGsプログラム」の発信
 - (1) 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー
 - (2) 2050年の未来予想図ワークショップ

別添資料：

- 検討委員会議事録
- 教育イノベーション質問票例、調査分析結果
- モニターツアー配布資料、広報素材
- モニターツアーアンケート結果
- 「2050年の未来予想図ワークショップ」実施マニュアル

２．詳細編

(1) 「SDGs 時代に対応する森林空間を活用した教育イノベーション調査」の構成

1. ポスト・コロナ時代がもたらす新しい機会
2. 調査概要（目的、方法、調査内容）
3. 調査結果
 - 3.1 現状と課題
 - (1) 幼児教育・学童保育
 - (2) 青少年教育

- (3) 社会人教育
- (4) 中間業者利用の現状

3.2 利用者目線で見える新しい試みと機会

- (1) 森林空間を活用した幼児教育・保育における新しい試み
 - ① 森林空間を活用した森のようちえんや学童保育などの新しい試み
 - ② ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ③ 利用者（保護者）の声
 - ④ モニターツアーからのフィードバック
- (2) 学校の枠組みの中での森林体験教育における新しい試み
 - ① 総合学習や教科学習、学校行事での森林体験教育
 - ② 森林体験・地場産業・地域振興・課題解決などを組み合わせた新しい試み
 - ③ ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ④ 学校関係者の声
 - ⑤ ワークショップからのフィードバック
- (3) 学校の枠組みの外での森林体験教育における新しい試み
 - ① サマーキャンプなどにおける新しいニーズとそれに対応する民間業者やNPOの新しい試み
 - ② ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ③ 利用者（保護者）の声
- (4) 森林空間を活用した社員研修などの新しい試み
 - ① 森林空間を利用したリトリートなどの新しい試み
 - ② ボトルネックを乗り越えるための方策
 - ③ 利用者の声
 - ④ モニターツアーからのフィードバック

3.3 事業者目線で分析する持続可能な森林体験教育の実現と普及に向けた方策

- (1) 森林体験教育サービス提供者の経営改善
- (2) 森林体験教育サービス提供者の人材育成
- (3) 森林体験教育サービス提供者の広報・集客
- (4) 中間業者の役割
 - ① マッチングサイトや旅行代理店における森林体験の販売
 - ② プログラム開発やコンサルティングなどの新しい試み
 - ③ 機会と限界
- (5) ライト層、無関心層に対するアプローチ
- (6) 人と人をつなげ、森林体験教育の振興を図るための仕組みとその類型
 - ① 自然学校・森林教育施設主導型

- ② 森のようちえん主導型
- ③ 地場林産業主導型
- (7) 移住促進諸策との連動
- (8) 新型コロナウイルスの影響とポストコロナ対応
 - ① 事業実施、経営面へのインパクト。
 - ② ポストコロナの森林体験教育。
- (9) 森林環境譲与税の果たすべき役割
- (10) 森林教育の更なる振興のためにできること、すべきこと

(2) 「メディア・企業との協創による「森林 xSDGs プログラム」の発信」の構成

1. 森林の新たな楽しみ方を提案する森林モニターツアー
 - (1) 背景・目的
 - (2) 実施方針
 - (3) 活動内容（発信を含む）
 - (4) 成果、評価
 - (5) 提言
2. 2050年の未来予想図ワークショップ
 - (1) 背景・目的
 - (2) 実施方針
 - (3) 活動内容（発信を含む）
 - (4) 成果、評価
 - (5) 提言

**令和 2 年度つたえる、感じる、つながる、森林×SDGs プロジェクト事業
最終報告会内容等（案）**

1 場所・日時等

（1）場所

- ・株式会社かいほつマネジメント・コンサルティングの会議室等を活用。
- ・事務局以外の参加者は、Zoom での参加とする。

（2）日時

- ・第 3 回検討委員会の開催後、2 月第 3 週～3 月第 1 週の間の日程度（3～4 時間）

2 内容

（1）基調報告（木下室長から）

- ・SDGs 時代に対応する森林空間を活用した教育の在り方等

（2）事例報告（優良事例の担当者、受注者の担当者から）

- ・報告書に記載の優良事例のうち 3 事例程度
- ・モニターツアー、ワークショップの実施報告

（3）検討委員会概要報告（宮林委員長から）

- ・検討委員会の概要、提言について

（4）パネルディスカッション

- ・登壇者は、事例報告の発表者（優良事例の担当者）、検討委員会委員から 2～3 名、木下室長